

私学助成署名推進ニュース

全国私学助成をすすめる会(事務局:全国私立学校教職員組合連合)
No.11 2025年7月9日(水)

7・4「学費の公私間格差・自治体間格差是正を考える院内集会」その2 ご挨拶くださった国会議員のみなさん



山崎誠議員 宮口治子議員 柴山昌彦議員 山添拓議員 高木まり議員 西岡義高議員 杉村慎治議員



2025.7.4 学費の公私間格差・自治体間格差是正を考える院内集会 参加議員一覧

本人出席議員のみなさん				代理出席議員のみなさん				
お名前	選出	院	会	No	お名前	選出	院	会
山崎誠議員	比例南関東	衆	立	1	藤原規真議員	愛知	衆	立
○宮口治子議員	広島	参	無	2	斉藤嘉隆議員	愛知	参	立
☆柴山昌彦議員	埼玉	衆	自	3	階猛議員	岩手	衆	立
山添拓議員	東京	参	共	4	山下芳生議員	比例	参	共
高木まり議員	埼玉	参	立	5	舟山康江議員	山形	参	国
☆西岡義高議員	神奈川	衆	国	6	芳賀道也議員	山形	参	無
杉村慎治議員	埼玉	衆	立	7	大串正樹議員	比例近畿	衆	自
				8	坂本哲志議員	熊本	衆	自
				9	平井卓也議員	比例四国	衆	自
				10	山下雄平議員	佐賀	参	自
				11	安江伸夫議員	愛知	参	公
				12	工藤彰三議員	比例東海	衆	自
				13	佐藤公治議員	広島	衆	立
				14	平林晃議員	比例中国	衆	公
				15	大石あさこ議員	比例近畿	衆	れ
				16	牧義夫議員	愛知	衆	立
				17	おおたけりえ議員	比例東海	衆	立
				18	津島淳議員	青森	衆	自
				19	八幡愛議員	比例近畿	衆	れ
				20	金子恵美議員	福島	衆	立
				21	坂井学議員	神奈川	衆	自
				22	小川淳也議員	香川	衆	立
				23	玉木雄一郎議員	香川	衆	国
				24	岩田和親議員	佐賀	衆	自
				25				
				26				
				27				
				28				
				29				
				30				

	本	代	計
自由民主党	1	8	9
立憲民主党	3	8	11
国民民主党	1	2	3
公明党	0	2	2
日本共産党	1	1	2
日本維新の会	0	0	0
社会民主党	0	0	0
れいわ新選組	0	2	2
無	1	1	2
計	7	24	31

参加政党 6

	本	代	計
衆	4	18	22
参	3	6	9
	7	24	31

☆...衆議院文部科学委員 3
○...参議院文教科学委員 2

(以下、あいさつ要旨)

「子ども2人が私学に通っているの、厳しさはよくわかる。どの子どもでも教育を受ける機会を失ってはいけない。高校無償化の流れができて、与野党を超えて進めていきたい」(山崎議員)、「4年間文教科学委員を務めて、生徒の自死、不登校、教員の働き方などに向きあってきた。自治体間格差や所得制限があつては、じっくり落ち着いて学べない。どの子どもも自分が学びたいところで学べるようにしていきたい」(宮口議員)、「3党実務者協議の責任者を務めてきた。高校授業料無償化は、今年度公立高校授業料分を実施し、来年度は上限を45万7000円に引き上げるためには4000億円程度の予算が必要だが、必ず来年やりますから。奨学給付金、外国の生徒、通信制などの制度設計は残っているが、12月の本予算案までに決めていく。今後はさらに、大学など次のステップに進んでいく」(柴山議員)、「各党が「教育予算を増やせ」と公約に掲げて一歩ずつ前進し、ついに所得制限の事実上の撤廃まで来たのはみなさんの運動の成果だ。まだ授業料以外の負担があり、ここで終わるわけにはいかない。文科省のホームページを見ると、私学振興は大切とちゃんと書いてある。大学の入学金は、二重払いをしないですむよう通知を出させた」(山添議員)、「3党合意では無償化が言われているが、まだしっかりした案は見えていない。先生の働き方にも課題がある。3人の子どもを育てているが、「ごめん、公立しか選択肢ないから」と言わざるを得ない」(高木議員)、「文部科学委員を務めている。私学の存在意義は、多様な学びの観点から明らかだ。教育の機会均等を保障するためにも、私学の無償化は必要だ」(西岡議員)、「全国からこれほど多くの方が参加されている。子どもを真ん中にした地域経済、子どもが幸せな街づくりをめざしたい。私学の無償化はまだ道半ばであり、入学金などの負担が解消していない」(杉村議員)



私学助成拡充を求めて交流する人たち 7月4日、参議院議員会館

日本共産党の山添拓参院議員、各党国会議員があいさつ。山添氏は集会後、参加者代表と懇談しました。

「シングルマザーで5人の子を育て、途中から就学支援金が始まり、生き延びた。次世代のためかわり続ける」と話しました。

山崎議員は、「母校で教員になりたいが、教員不足なのに正規職員の募集がない。経営経費補助を増やしてほしい」と述べました。山崎の参加者は、「シングルマザーで5人の子を育て、途中から就学支援金が始まり、生き延びた。次世代のためかわり続ける」と話しました。

私学助成をすすめる会が集会

全国私学助成をすすめる会は4日、参議院議員会館で「学費の公私間格差・自治体間格差是正について考える院内集会」を開き、関係省庁や国会議員への要請に取り組みました。政府で検討中の高校学費無償化制度の課題解決や、私学助成拡充を実現しようと呼びかけました。

あいさつした鈴木昭浩共代表は、「2025年度の就学支援は臨時措置であり、26年度以降は検討中だ。気を緩めず運動を広げよう」と強調しました。

山口直之共同代表(全国私学連委員長)は、今年度予算で私学の授業料無償化が決まったが、その具体化はこれからであり、今後1年の運動が重要だと強調。制度改善や教職員の人員費など経営経費の国庫補助引き上げを訴えました。

参加者発言で、教員免許を取得した私学卒業生は、「母校で教員になりたいが、教員不足なのに正規職員の募集がない。経営経費補助を増やしてほしい」と述べました。山崎の参加者は、「シングルマザーで5人の子を育て、途中から就学支援金が始まり、生き延びた。次世代のためかわり続ける」と話しました。